

平成26年度 第1回入船地区学校統合懇談会議事要旨

1 開催日時 平成26年7月1日(火) 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所 消防本部大会議室

3 出席者

(委員)

学校統合アドバイザー 小松郁夫氏(常葉大学教職大学院教授)、
入船中学校長 緒方利昭委員(会長)、入船南小学校長 鞠山誠人委員(副会長)、
入船北小学校 PTA 会長 新田裕子委員(副会長)、
入船北小学校長 手塚和真委員、入船北小学校 PTA 役員 君島佳子委員、
入船南小学校 PTA 会長 本橋英明委員、入船南小学校前 PTA 副会長 大下玉美委員、
入船中学校学校支援コーディネーター 中村智子委員
教育総務部長 米本慎一、教育総務部参事 鈴木忠吉、
教育総務部次長 佐久間利秋、教育総務部次長(教育政策課長) 佐藤伸彦
(事務局)

学務課長 小澤力雄、学務課主幹 鈴木孝一、教育政策課長補佐 小林桂子、
教育政策課主査 佐藤克文、教育政策課主任主事 小倉隆志

4 議題

- ・会長、副会長の選出
- ・学校統合に係る組織及び今までの経緯について
- ・新しい小学校における『魅力ある学校づくり』について

5 資料

- ・入船地区学校統合懇談会設置要綱
- ・入船地区学校統合に関する組織図
- ・平成25年度 入船地区学校統合だより

6 会議経過(概要)

(1) 事務局の説明について

- ・入船地区学校統合に係る組織と入船地区学校統合懇談会の位置づけ
- ・学校統合に向けての昨年度の取り組み
- ・入船地区学校統合整備事業の工事着工

(2) 新しい小学校における『魅力ある学校づくり』について

○学校統合に向けた入船北小学校と入船南小学校の連携について

委員： 昨年度より具体的な交流活動を行ってきたが、いよいよ統合が次年度とい
(校長) うことで、より具体的に交流活動を行っていく予定である。6月12日には
入船南小学校に入船北小学校の教職員が訪れ、2学期以降の行事の取り組み
について学年ごとの部会に分かれて話し合った。できるだけ同じような経験
や同じ授業の進め方、同じ行事等、摺合せを行った。

委員： 5月2日の交流遠足では、学年間の交流で一緒に遊ぶことができたことは、大
(校長) きな進歩と考えている。保護者の方々も多数参加し見守ってくださった。

3年生は6月13日に合同の町探検を行った。キーワードは学年間の交流を深め
めるということで、2年生の町探検、6年生の学校案内パンフレットづくり、4年
生の防災マップづくり、1年生のシャボン玉など、1学期を中心に交流を深める。

入船南小の運動会の案内、ほたるの里の鑑賞会のお誘いなどがあり、保護者を合
わせて40名ぐらいが行ったらしいということを知った。2学期も運動会や祭りな
どを通して交流が深められたらよいと思っている。

○小中連携・一貫教育に関する取組について

委員： 今までは情報連携、行動連携を行ってきたが、これからの学習、行事、研修連携
(校長) についても、校長、教頭、教務が集まってどういう連携があるか話し合いをもっ
ている。

学習連携では理科教育について、カリキュラムの指針をつくっていきこうと進めて
いる。他教科でも連携を検討している。行事では、9月の体育祭に小学生が参加
できる種目を行ったり、11月の合唱コンクールは、入船南小と入船北小の児童と
連携して合唱しようと考えている。教職員の連携では、生徒指導連携部会、教科指
導連携部会、行事連携部会を立ち上げ、8月21日には小松先生を講師としてお招
きし、小中連携を深める研修会を行っていききたい。モラールアップの点からも小中
教職員が交流できるスポーツ大会などを実施し、教職員同士が自然に話し合えるよ
うな環境にしていききたい。

○入船北小学校と入船南小学校の保護者交流について

委員： 5月2日の交流遠足では、両校の保護者も子どもたちの様子を見守り、最後に保
護者が顔合わせをした。1学期は交流の時間はとれなかったが、PTA同士では何
回か顔合わせを行い、新しい小学校のPTAづくりについてと、情報交換を行った。

今後、携帯電話の講習会を入船北小学校の4, 5, 6年生と保護者向けに行う予

定なので、そこでも保護者の交流ができればよいと思っている。

○その他

事務局： 6月12日の職員交流では、両校の先生方が学年ごとに集まり、大変真剣に話し合いをしていた。子どもたちは、交流を通して相手の立場に立って考えるという、人として成長していくための学びをしていると感じた。また、教職員の思いや取り組みが子どもたちに伝わっていくのではないかと思った。

委員： 携帯電話SNSのことがあったが、現在は低学年のうちから携帯電話の所持率が高い。使い方や家でのルールについても、ぜひ入船南小学校でも行っていただけたらと思う。

入船の英語教室について、ぜひご説明いただければと思う。

会長： 学校支援コーディネーターとして両小学校のコーディネーターとも連携して行っているのですが、そのあたりも踏まえてお話しいただきたい。

委員： 昨年より、入船英語教室を入船地区在住の方にお願ひして実施している。英語の楽しさを知ることが目的で、小学校6年生と中学校1年生を対象に、今年度も9月から希望者20名を対象に全10回実施する予定である。学校の授業とは違ったオリジナルの教材を使用し、英語が楽しいと思えるように、学習をしている。1学期の終わりごろに、生徒を募集する予定である。夏には入船南小を会場として、ラジオ体操も計画している。

○入船北小学校と入船南小学校の良さを受け継いだ新しい学校づくりについて

事務局： (他市事例をもとに説明) 今行っている取り組みの中で残したいもの、歴史として交流ルームに残したいものがあつたら、参考にご意見を伺いたい。

会長： よいこともあるし、課題もある。それらを出していただければ協議し、教育委員会と協力して進めていくこともできるのでご意見をいただきたい。

委員： 統合については当初は反対だった。ただ、PTAや先生の話など、色々な情報を伺っていくと、こんな体験、一生のうちでできることは限られているということで、だんだん魅力的に親も感じてきた。子どもたちが在籍していたということ、そこに入船北小学校があつたということをお忘れしないで、誇りになるような形で残していただければ、親としてもありがたいと思っている。

委員： ずっとPTAをしてきて、3、4年前から考えると、統合に関してみなさん前向きに変化してきているので、先生方も研修会をされるなど努力されていることなど、保護者の方々もご存じないと思うので、もっと保護者の方にアピールしていただけるとよいと思う。

その中でも入船北小学校卒という誇りもあるので、どこかで交流ルームのようなものをつくっていただければ、子どもたちも入船北小学校のことを忘れずに、新しい小学校でスタートできると思うので、ぜひ新しい学校の特色を大々的にアピールしてほしいと思う。

会長： アピールの方法としては学校のHPを利用したり保護者会で話したり、ということも考えられるが、他にも何かあるか。

事務局： 入船地区学校統合だよりを出しているが、それをもっと効果的に発信できればいいというのがひとつと、10月に説明会をする予定ですので、内容面を充実させていきたいと思う。

委員： 今後のスケジュールについて、具体的なタイムスケジュールを早めに出してほしい。いつまでに学校を決めるのか、体操服などはどうするか等の細かいことも早めに情報をいただきたい。

事務局： 10月ぐらいには説明会を行う。その後希望調査を行う予定である。

委員： それぞれに通う児童がどのくらいいるか、「中間報告」のようなものがあるとよい。

事務局： 就学希望調査を実施し、結果をお知らせする。その後変更もできるが、12月までには決定していただきたいと思う。

委員： 両校の姿を残していくような形で新しい学校を作っていけたらよい。一番大事なのは、子ども達によりよい環境をつくってあげること。

柱は、学習面でどういう特色をだすか、スポーツ面で、情操教育で、と3つの面で特色を出せたらよい。3校がくっついて、新しいシステムができれば、それは新しい取り組みになっていくと思う。

学習については、受験が過熱化しているが、9年間の教育となれば、違った教育システムになっていくのではないか。スポーツでは、部活動が一貫ということになれば、非常に幅が広がるし、6年生と一緒に練習したら、能力のある子は伸びるな

どよいのではないか。いじめは予想がつかないが、人生は連続なので、教育なりしつけなりを、9年間の流れの中で行っていくことが新しい連携ということで、期待している。

入船北、南小学校だけでなく、もっと浦安市全体という広い目で、入船地区に来ると、こういう新しい教育システムだと、魅力ある学校づくりをしていただき、みんなを惹きつけてほしい。

委員： 小中連携ということであれば、突然中学生になったからといって、できないものができるようになるわけでもないので、もっとなだらかに成長できる教育課程であるとよいと思った。

7 学校統合アドバイザーの助言

学校とか教育の仕事は、世の中との関わりの中にある。大きくは2つの役割がある。一つは不易で、長いこと受け継いできた伝統や文化を受け継いでいくという役割。二つめは流行で、変化が激しい時代にあって、学校が先取りしなければならない。義務教育については「教育再生実行会議」でいじめや教育委員会の問題、大学入試、大学の問題が提言された。義務教育ということを国で議論を始めたということは、それぞれの地域で準備を始めていかなければならないと考えている。全国いくつか小中学校をくっつけた施設一体型の小中一貫校も出てきている。浦安も早めに取り組むとともに、できる地域や学校があれば、進めていただいたらよいのではないか。単に2つを1つにするということではなく、これを機会に浦安のこの地域ならではのものを作ってほしい。

この機会に思い切って新しい教育をやるというチャンスにしてほしい。統合がなければ、入船の教員は話し合いもなかったのではないか。このことをきっかけに、より多くの先生方が、〇年生の国語の学習をどうしようなど、具体的にいろいろなアイデアを出し合っていければよい。

工事が始まりいよいよハードが新しくなるが、例えば中学校の先生に教わったり、ALTの先生がいたり、英語クラブがあったりということで、最後はソフトになる。小中の交流から始まり9年間を通してどうするかということを考えてほしい。小中で協力して、今年、来年だけでなく5年10年を見通してやってほしい。

そのうえで最も大切なのは色々な人たちが交流できるということ。習慣や文化も異なる人たちと豊かな人の交流ができるということが、これからの時代大切になってくる。ぶつかることもあるが、色々な性格、背景の人たちとやっていくことが大切で、もっと身近なところで、様々な人と交流していくことが必要であり、少子化や核家族化の今、学校も適正な規模が必要であると考えている。

保護者の皆さんに早く理解していただくためには、情報を早めに、多様な形で出し

ていく、わかりやすく出していくということが大事である。

1 + 1 が2以上になることが必要という話をしたが、財産を引き継ぎながら、新しい歴史を作っていくという担い手であるという意識を、子どもたちに持ってもらうとよい。来年はスタートとして、子どもを頼りにし、「大変だったけど、私たちが学校を作ったんだ。」というように、後輩たちに自慢できるようにしてほしい。統合により新しい学校をつくるという作業だという考えがよいと考えているし、そういう意識で関わらせていきたいと思っている。

入船地区では入船地区の状況にあったものということで、大変な仕事ではあるが、後々、子ども達に喜んでもらえるようになっていければと思う。

8 お礼の言葉

委員から、なめらかな接続と連続した学びというお話があったが、保護者の立場から「これからの子どもたちのためにぜひ新しい教育を。」ということをお話しいただいたので、わたくしたち教育委員会としては、本市が目指している就学前から小中連携・一貫教育について、この考え方で進めていっていいのだと後押しの言葉をいただいた。

また、なくなっていく学校についても、子どもたちのメモリアルということや、統合はなかなかない経験とポジティブにとらえていただいた。

新しい学校になって、この先の子どもたちのために、先人の子どもたちが残してくれた歴史をきっちり残して行って、今があるのはこの子どもたちの歴史があるからだよ、ということを残していきたいと思っている。

残すところ、半年と短いですが、事務局をはじめ連携推進部会の方で細やかに、子どもたちのためにやれることをやっていきたいと考えている。

この懇談会自体はあと、2回ですが、事務局にぜひ、保護者の視点から随時ご意見をいただければ、それらを参考に進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

閉会